

県内金融機関2018年3月期決算

	経常収益	経常損益	純損益
岐阜信用金庫			
(単)	33,108 (0.5)	7,089 (36.9)	4,190 (▲0.8)
(予)	—	—	—

【注】単位は百万円、%、(単)は単体、(予)は2019年3月期予想。
かっこ内は前期比増減率。

岐阜信金、純利益横ばい

3月期 経常利益は36・9%増

岐阜信用金庫（岐阜市神田町）が12日発表した2018年3月期単体決算は、日銀のマイナス金利政策による貸出金利の低下が収益を押し下げたものの、取引先の業績改善で与信関係費用が減り、純利益は横ばいとなる前期比0・8%減の41億9000万円だった。減益は2期連続。

本業の収益力を示す実質業務純益は、マイナス金利に伴って資金利益が減り、36・8%減の36億2200万円。一方、与信関係費用

の減少や人件費の削減効果などが寄与し、経常利益は36・9%増の70億8900万円、2期ぶりの増益となった。期末預金残高は、法

人預金が増え、0・5%増の2兆2946億円。期末貸出金残高は、横ばいの1兆3021億円だった。財務の健全性を示す自己資本比率は、0・15%上昇の9・46%となり、国内基準の4%を上回った。19年3月期予想は、日銀のマイナス金利の影響が不透明として、公表していない。